

GRASS ROOTSの冒険者たち

～深めよう！たどり着きたい未来に向かって～

その12 (R04.05.26)

～プール開きのお話～

教頭先生がプール開きの話をしました。

みなさん、おはようございます。今日はみんなが楽しみにしていたプール開きの日です。そこで、授業でプールに入る前に、知っておいてほしいことを、スライドを見ながら3つのお話をします。

1つめは、プール清掃のお話です。この写真を見てください。昨年度プール納めをしてから、約1年間掃除をしなかったため、かなり汚れてしまいました。

そこで、5年生と6年生、そして先生方が、汚くなくなった水を抜き、プールを掃除しました。底にたまつた汚れや壁についている汚れを、デッキブラシやたわしで丁寧に落してくれました。プールには入れるようになるには、多くの方が清掃をしていることを忘れないでください。感謝の気持ちを持って、プールに入ってほしいと思います。

2つめは、プールの入り方です。県のガイドラインでは、現在、「コロナ感染警戒度2」ですので、プールに入ることが出来ます。ただし、プールでは、マスクをしませんので友達との距離を2mあけて下さい。注意することは、友達との間をしっかりとあけたり、おしゃべりをしなかったりすることです。詳しくは、プールの授業が始まつたら、担当の先生からお話があると思います。しっかり守って下さい。

今度は良くなつたことです。昨年は、プールに1クラスずつ入りましたが、今年は、6年生以外は、学年でプールに入ることが出来るようになりました。こちらも、先生の指示に従ってください。

3つめは、プールに入るときは、ルールを守ってけがや事故がないように、友達に迷惑をかけないように気を付けて下さい。プールサイドを走ったり、飛び込んだり、ふざけたりしないで下さい。

その他にも、守らなければならないルールがあると思います。校庭や、校舎内の事故、けがとは違い、プールでの事故は、命に関わることが多いので、絶対にルールを守って下さい。いろいろ話をしましたが、ルールを守って、事故のない、楽しくプールに入って下さい。

これで、プール開きの話を終わりにします。

～学校経営要覧と羅針盤～

学校経営要覧を配付しました。また、裏面に今年度の学校評価の羅針盤を掲載します。よろしくお願ひします。

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策
I 保護者等との連携	保護者への情報提供	①「学校や児童の様子を保護者に伝え、理解を得ていますか。」 ②「保護者は学校の諸行事に参加していますか。」 ③「保護者は、学校に連絡・相談しやすいと思っていますか。」	○各種通信、ホームページ、クラスルームによる情報発信を充実する。 ○授業参観・懇談会・親子行事など内容を充実するとともに、早めに知らせ参加しやすい環境をつく ○電話や接する態度を誠実で丁寧にする。 ○教育相談期間を設け、個別相談する体制を作 ○教材の工夫や授業改善することにより、児童の活動を中心とした楽しく分かる授業にする。
	連携のための環境づくり	④「授業がわかる」と答える児童が90%以上である。	○児童の実態を分析し、その解決のために指導法を工夫する。
	保護者への対応	⑤「児童の課題解決のために、実態に基づいて授業の工夫を行っている」という教員が80%以上である。	
II 確かな学力	分かる授業	⑥「家庭で自主学習や読書を取り組んでいる」と答える児童が80%以上である。	○「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」を継続的な活用により、学習習慣の定着を図る。 ○学級懇談会等で家庭学習を話題にすることにより、家庭の協力の大切さを伝える。 ○復習に重点をおいて指導したり、見本となる自主学習ノートを紹介したり、スマイルネクストの活用したりすることにより、自主学習に取り組む環境をつくる。
	授業改善	⑦進んであいさつできる児童が80%以上である。	○あいさつの意義やよさについての日常的な指導に努め、進んであいさつができたらその場でほめるような働きかけを行う。 ○各種通信、ホームページやクラスルームの活用により、挨拶や言葉遣いの大切さを伝えることにより、児童の意識を高める。 ○児童委員会の「あいさつ運動」を継続して行う。
	学習習慣	⑧時や場・相手に応じた適切な言葉遣いができる児童が80%以上である。	○職員が見本を示すとともに、状況に応じて具体的に指導する。 ○外部講師を招くときや校外学習などの機会を逃さず、事前指導を通して適切な言葉遣いについて指導する。 ○学校・学年・学級通信やホームページ等で、言葉遣いの参考例を示す。 ○あたたかい眼差しと言動を基盤とした学級づくりを通して、一人ひとりに自己肯定感や自己有用感をもてるようにする。
III 豊かな心	挨拶や言葉遣い	⑨「楽しく学校に通っている」と答える児童が90%以上である。	○特別な教科「道徳」を中心として教育活動全般を通して指導を行う。 ○機会を捉えて、相手の気持ちを考えさせる。
	いじめのない人間関係	⑩相手の立場に立って物事を考えることができる児童が育っていますか。	○日常の児童の様子をよく観察する。 ○毎月行う「なかよしアンケート」の内容によく確認し、すぐに対応する。 ○いじめの疑いがあると思ったときは、すぐに管理職に相談する。
	11 いじめの早期発見に努め、いじめの事実があると疑われるときは、すぐに対応していますか。	⑪「いじめの早期発見に努め、いじめの事実があると疑われるときは、すぐに対応している」と答える教員が100%である。	
	学校や家庭のルール	⑫「きまりを守って生活している」と答える児童が80%以上である。	○学校のきまりについて、教職員の共通理解のもと同一歩調で取り組みを継続する。 ○きちんとできていること、頑張っていることに対して賞賛する機会を増やす。
	13 児童は早寝早起きの習慣ができていますか。	⑬「早寝早起きの習慣ができている」と答える保護者が90%以上である。	○各種通信、教育相談、懇談会等で保護者への啓発を継続的に図るとともに、児童・保護者への個別指導もねばり強く行う。 ○「生活カード」を継続して活用し、生活について振り返る機会を設ける。
IV 健康・体力	基本的な生活習慣	⑭「運動に親しんでいる」という児童が80%以上である。	○体力向上プランに基づき、教職員の組織的な指導により、課題のある項目の改善を図る。 ○体育集会や体育等を通して、運動好きな児童を増やす。
	体力づくり	⑮「家庭や地域と連携して安全に努めている」と答える教員が90%以上である。	
V 安全確保・施設設備	地域の安全対策	⑯「将来の夢や希望について考えられたり話題にしたことがある」と答える児童・保護者が80%以上である。	○「芝根の安全まもり隊」など保護者や地域に協力を呼びかける。 ○危険箇所の情報収集に努める。 ○児童が登校する時間に、通学路を見回ることにより、登校の実態を把握するとともに、安全に関する指導を行う。
	夢や希望	⑰「自分が好きだと答える児童が80%以上である。	○キャリア教育の全体計画をもとに、日々の教育活動とキャリア教育を結び付けて指導する。 ○朝礼や学校・学年・学級通信等で夢や希望についてふれることにより、児童や家庭で話題にできる機会を提供する。
VI 進路・生き方	16 自らの夢や希望について考えられる児童が育っていますか。	⑱「毎日なるべく早く帰ろうと意識して、校務の効率化に取り組んでいる」と答える教員が80%以上である。	○学級活動や学級通信等で児童のよさを教師や仲間同士で認め合う取組を継続する。 ○校務支援システムを活用し、児童のよい行動を共通理解して、頑張ったことに対して全職員で声をかける機会を増やしていく。 ○学校と家庭で協力して、できたことを認めて、ほめられる経験を積み上げる。
	17 児童に自己有用感や自己肯定感が育っていますか。	⑲「毎日なるべく早く帰ろうと意識して、校務の効率化に取り組んでいる」と答える教員が80%以上である。	○学校支援Cや学年主任を中心に、外部人材を積極的に活用する。
	18 教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用していますか。	⑳「各種文書・データ等の整理や資料の作成など、校務の効率化を図り毎日なるべく早く帰宅しようと意識していますか。	○各種文書・データ等の整理の仕方を統一する。 ○資料の作成方法等、助言する。 ○校務の効率化の例を適宜助言する。
VII 組織運営	学校支援センター		
	業務改善		